

大震災に学べ

まず揺れへの備えを

熱田の寺 市消防局職員が講演

東日本大震災からの教訓を学び東海地震に備えようと、熱田区尾頭町の雲心寺で二十六日、市消防局の職員を招いた特別講演が開かれた。講演は名古屋大須ロータリークラブが主催。寺に併設の幼稚園の保護者や近隣住民百人以上が詰め掛け、関心の高さを示した。

国が先月発表した、南海トラフの巨大地震で起こる最大クラスの津波想定は、名古屋市で三・八メートルだった。難波さんは市が昨年六月から進める津波避難ビル指定の取り組みについて

国が先月発表した、南海トラフの巨大地震で起こる最大クラスの津波想定は、名古屋市で三・八メートルだった。難波さんは市が昨年六月から進める津波避難ビル指定の取り組みについて

講師を務めたのは市消防局防災室の難波伸治さん。まず、東日本大震災と阪神大震災を比較し「津波被害がクローズアップされているが、その前には大きな地震もあった。まずは揺れへの備えを」と、耐震化や家具の固定などを呼び掛けた。



市消防局の難波さんの話に耳を傾ける参加者＝熱田区で

全市の見直しを行う」と話した。(沢田千秋)